

令和4年度 三芳町芸術文化推進基本計画における進捗状況の検証報告

三芳町芸術文化推進基本計画（第1次）について、推進プログラムの進捗状況を把握し、着実な実施がなされているかを検証するため、芸術文化推進会議において調査・審議を行った結果を以下のとおり報告する。

1. 事業の自己評価

別紙

2. 芸術文化推進会議による総合評価

芸術文化推進会議 総合評価							
採点	①事業の総合性	②芸術との出会い	③担い手の育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点	
	16	17	17	17	19	86	
	24点中	24点中	24点中	24点中	24点中	120点中	
達成率	66.7%	70.8%	70.8%	70.8%	79.2%	71.7%	
委員別	4点中	4点中	4点中	4点中	4点中	20点中	
	曾田会長	3	3	4	3	3	16
	岩崎委員	3	3	3	4	3	16
	池上委員	3	3	3	4	4	17
	増田委員	1	2	1	1	1	6
	大木委員	3	3	3	3	4	16
	大貫委員	3	3	3	2	4	15
総評	<p>三芳町が、芸術文化振興基本計画を策定し、その実現に向けて明確な目標を設定して、毎年度の自己評価及び外部評価を実施する体制を整えたことは、行政の取組として高く評価できる。計画実施の初年度である令和4年度には、多くの項目ですでに相当の成果を上げていることが確認できるが、各政策領域をつなげる総合的な施策として、さらに高次の取組が進むことを期待する。個別の評価項目を見ても、参加の主体、担い手、継承と交流、独自性など芸術文化の創造性に基盤を置いた達成目標が明示的に示されており、本計画が今後のまちづくりのたしかな推進力となることが期待される。</p>						

3. 芸術文化推進会議の委員別評価

曾田会長						
採 点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	3	3	4	3	3	16
	4点中	4点中	4点中	4点中	4点中	20点中
総 評	<p>三芳町が、芸術文化振興基本計画を策定し、その実現に向けて明確な目標を設定して、毎年度の自己評価及び外部評価を実施する体制を整えたことは、行政の取組として高く評価できる。計画実施の初年度である令和4年度には、多くの項目ですでに相当の成果を上げていることが確認できるが、各政策領域をつなげる総合的な施策として、さらに高次の取組が進むことを期待する。個別の評価項目を見ても、参加の主体、担い手、継承と交流、独自性など芸術文化の創造性に基盤を置いた達成目標が明示的に示されており、本計画が今後のまちづくりのたしかな推進力となることが期待される。</p>					

岩崎委員						
採 点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	3	3	3	4	3	16
	4点中	4点中	4点中	4点中	4点中	20点中
総 評	<p>2022年度の事業計画に関しては、芸術文化推進基本計画の前という事も総合的に判断は少し困難ではあるが、各項目ともしっかりと取り組んでいるように拝見した。 芸術文化推進基本計画の立ち上げの際にも確認しましたが、PCDAサイクルではなく、CA-PDCAのサイクルへ変えていく良いチャンスかと思う。 この事業評価から次のステップへ向かうための現状把握をきちんとした上で、2023年度事業も進めていただきたい。</p>					

池上委員						
採 点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	3	3	3	4	4	17
	4点中	4点中	4点中	4点中	4点中	20点中
総 評	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度途中からの事業着手であったにも係わらず、かなり良い事業展開ができたと評価できます。 ・真に芸術文化への気運を醸成していく為には、広範な分野、広範な町民(対象)へのアプローチが重要です。そうした観点から見ると、本年度は、(コロナ禍の影響も有りますが)美術、写真、文芸などのすくい上げに物足りなさを感じました。 ・芸術文化の更なる創造・深化の為には、その担い手となる若者の参加が必須です。そこで若者文化の潮流に合った分野(例えばダンスやパフォーマンスなど)の「場の提供」が必要だと感じます。 					

増田委員						
採 点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	1	2	1	1	1	6
	4点中	4点中	4点中	4点中	4点中	20点中
総 評	<p>今年度、三芳町で行なわれた文化事業は多岐にわたり、非常に豊かなものであったと改めて感銘を受けました。町民の皆さんの意識の意識も感じることが出来ます。その上で、今年度行なわれたそれぞれの芸術文化事業が基本計画に沿ったものであるか評価することに疑問を感じます。前回の会議でもお話しさせて頂きましたが、本来は町が主導して「町の芸術文化の方向性」を明示し、各事業実施者とその方向性と合致する内容にすべく話し合うことが必要と考えるからです。その手順を踏まない企画もあるでしょう。それは評価の対象にしなくても良い、もしくはすべきではないと考えます。今年度の事業の中に「町の意図」を含むべく、町と実行者が打合せたものがあつたかもしれませんが、それが何であつたか不明なので上記の評価としました。</p>					

大木委員						
採 点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	3	3	3	3	4	16
	4点中	4点中	4点中	4点中	4点中	20点中
総 評	<p>町やコピスが主導・主催するものが多いように感じる。初年度であることもあるかもしれないが、町民主体にしていくためのバトンの繋ぎ方は考えていく必要がある。</p> <p>コロナを言い訳にせず、全ての人が参加しやすいものを多く取り入れてほしい。特に、コピスではなく公民館や児童館での催しが増えると、足を運びやすくなっていくのではないかと。暮らしとの繋がりを大切にしたい。</p> <p>「三芳町だから」できる事業が多数企画・実施されている点は、大きく評価されるべき。</p>					

大貫委員						
採 点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	3	3	3	2	4	15
	4点中	4点中	4点中	4点中	4点中	20点中
総 評	<p>企画の独自性という観点では、全国的にみても積極的な事業展開となっていると思われる。次世代の担い手育成のためのマスタークラスの実施については、毎年10名ほどの安定した応募がある。また、近隣音楽教室が教室単位で聴講に来場するなど、周知も広がってきている。文化会館での興行については、集客に課題が課題となる。これまでのターゲット層ではない、より若い世代をターゲットとする事業を展開することによって、町民の包括性を高め、継承と交流の度合いを高める必要があると考える。</p>					

令和4年度三芳町芸術文化推進基本計画における事業の自己評価

作成：三芳町文化・スポーツ推進課

評価項目

① 事業の総合性	福祉、教育、産業、観光、健康等の町民の暮らしに係る幅広い分野に活用できる取り組みになっているか。
② 芸術との出会い	誰もが気軽に芸術文化にふれる環境づくりや、芸術文化を身近に感じられる機会を提供しているか。
③ 担い手の育成	子どもの創造力やコミュニケーション能力を高める工夫をしているか。また、町民の芸術文化活動を支援する取り組みとなっているか。
④ 継承と交流	町民同士の交流を深め、次世代へと輪を広げる活動になっているか。限定されたコミュニティのみに対象が絞られていないか。
⑤ 独自性	町ならではの資源（人、風土、文化等）を活かした内容となっており、町民にとって誇りを感じられる取り組みになっているか。

採点基準

4点	期待通りの成果あり（達成度 90%以上）
3点	改善の余地があるが、概ね期待通りの成果あり（達成度 70%以上）
2点	課題を有しており、期待をやや下回る（達成度 50%程度）
1点	抜本的な改善が必要で、期待をかなり下回る（達成度 30%）
0点	着手できていない

自己評価（実施事業）

1. 国内トップレベルの舞台芸術鑑賞事業						
採点	①事業の総合性	②芸術との出会い	③担い手の育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	3	3	4	3	4	17
概要と目的	町民の芸術文化活動への入口とするため、コピスみよしでのトップレベルの舞台芸術鑑賞事業を実施する。					
成果	<p>開館20周年を迎えたコピスみよしでは、「コピスみよし音楽祭」と銘打ってトップレベルの舞台公演が行われた。日本を代表するバリトン歌手4人（宮本益光・与那城敬・近藤圭・加未徹）を集めたコンサート、世界で活躍するピアニスト小川典子さんのリサイタル、昨年のショパン国際ピアノコンクールで日本人最高位の2位となった反田恭平さんと、エリザベート王妃国際音楽コンクールで同じく日本人最高位の3位となった務川慧悟さんの、いま最も旬なピアニスト2人によるデュオコンサート、三芳町出身でミュージカル界のトップアーティストとして活躍する上原理生さんの凱旋公演など、他年度に比べても注目を浴びる公演が目白押しとなり、集客も2つの完売を含め大きな成果を挙げた。</p> <p>また、町独自のプロオーケストラ「ザ・シンフォニエッタみよし」の第10回演奏会では、ピアノの名手・清水和音さんをゲストに迎えて国内トップレベルのオーケストラ公演を展開したほか、終演後にはアフタートークと称して出演者と来場者の交流を図る取り組みを実施したり、同楽団のメンバーを起用したりリサイタル</p>					

	<p>シリーズを新規に実施したりするなど、地元のオーケストラに対する親しみを抱かせる工夫がなされており、愛着度増にも大きく貢献したといえよう。</p> <p>なお、公演の実施においては、障がい者割引の設定や難聴者支援システムの構築など、バリアフリーにも積極的に取り組んでいた。</p>
課 題	<p>他の分野（観光、教育等）につながる事業となるよう工夫の余地があることが挙げられる。注目公演が多かったことで地元住民のみならず多くの町外者の参加があったが、鑑賞に来たついでに町の魅力にふれることのできる工夫もしなければならぬ。また、公演内容によって参加者が変動しやすいので、定期会員を募るなど安定した参加者の取り込みを行うなど、改善の余地は十分にあると言える。</p> <p>障がい者や外国人に向けて、今年度は問題なかったが、公演によっては英語の同時表記や手話通訳など必要に応じて対応すべきかと思われる。</p>

2. 文化施設の利便性の向上						
採 点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	3	3	4	3	4	17
概要と目的	文化施設の適切な維持管理を図るとともに、誰もが親しみやすく活動しやすい新しい時代に適った文化拠点を充実する。					
成 果	<p>コピスみよしの開館から20年が経過し、ホールのグランドピアノのオーバーホールを行った。修繕の期間は同等品をレンタルし、利用者への影響を最小限にとどめた。修繕後には世界的ピアニストの公演を積極的に行い、公演中のトークでもピアノを褒め称えるコメントが相次ぎ、コピスみよし自慢のピアノを適切に維持することができた。また、経年劣化により映像が不鮮明となっていたITVシステムについて、文化芸術振興費補助金を活用して自己負担額を削減するとともに、配信機能を付け加えたことによって、有観客での公演が難しい状況においても舞台芸術を止めることのない環境が整った。舞台芸術に関わらず、講演会など他分野の事業においても配信が可能になろう。他にも、備わっていなかったコントラバス用の高椅子の購入やミニホールのワイヤレスシステムの更新、楽屋系統等の空調機更新など、利用者の利便性を大きく向上させることができた。</p>					
課 題	<p>経年劣化により安全面や快適性に係る修繕・更新が多くなるのは仕方ないことではあるが、レンタル楽器の設置などより利便性を向上する施策を検討していかねばならないことが挙げられる。また、コピスみよしに限らず、町の至る場所で芸術文化活動を行うことができるよう場づくりをしていかねばならない。</p>					

3. 学校での芸術文化鑑賞・体験事業						
採点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	4	3	4	3	3	17
概要と目的	子どもたちが芸術文化にふれることにより、豊かな創造力・想像力やコミュニケーション能力をさらに高めるため、学校において舞台芸術鑑賞の機会を設ける。					
成 果	<p>文化庁が主催する「文化芸術による子供育成事業（巡回公演事業）」を、令和4年度は8校中6校申請し、2校が採択された。体育館が本物の舞台へと変貌し、いつも使い慣れた空間が非日常的な空間となったことに子どもたちの好奇心が非常に高まり、公演を楽しんでいた。令和5年度は全校が申請した（選考中）。</p>					
課 題	<p>小学校で体験した本事業が中学校でも同じ公演が行われてしまい、一部の生徒から残念がる声が上がった。どの公演で採択されるかは事務局に一任となるため</p>					

	<p>致し方ない面はあるが、なるべく重複しないように申請するなど工夫が必要だ。</p> <p>また、コロナ禍で企画が難しく実施できなかったアウトリーチ事業については、コピスみよし開館以来継続していた事業であるため、来年度は通常開催できるよう取り組まねばならない。しかしながら、巡回公演事業もアウトリーチ事業も実施しなかった学校にとっては、優れた芸術文化にふれる機会を喪失してしまったため、せめてどちらかは実施できるよう事業計画を調整する必要がある。</p>
--	--

4. 芸術文化支援事業						
採点	①事業の総合性	②芸術との出会い	③担い手の育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
		3	4	4	4	3
概要と内容	<p>町民が主人公となる芸術文化活動に対し、町が経費面の支援及び独創的な事業が実現できるよう助言等のサポートを行うことで、将来の自立した活動を促すとともに、より多くの住民が芸術文化に関わり合い、地域の感性を豊かにしていくことを目的として取り組む。</p>					
成果	<p>採択は最大で5事業としているが、昨年度に感染症のため中止となった事業を再採択したため、6事業の実施となった。今年度もコロナ禍での実施ではあったため集客がどれも伸び悩んだが、支援を受けることで公演の開催が実現でき、結果として町民の芸術文化活動への参加を促したこととなった。</p> <p>特に、4事業（うち1事業は中止）においては参加型になっており、町民の参加機会の充実にもなっていた。</p> <p>ターゲットは事業により様々で、幼児、小中学生、高齢者など幅広い層に訴求することができた。</p>					
課題	<p>経費面の支援は会場使用料全額としており、公演に係る収支はすべて住民団体の会計となるよう行っているが、団体によっては単に「会場使用料の免除」的な制度と捉えているところもあり、そもそも自立できる団体が申請しているケースがあった。また、自主公演においてはプロ・アマ問わず苦勞するのが集客であるが、積極的に宣伝活動を行わない団体もあり、チラシを作る、ホームページに載せる、SNSで呟くだけでは集客できないため、努力しなければ地域の感性を豊かにしていくことはできないということを初期段階で理解してもらう必要がある。</p>					

5. 竹間沢車人形公演						
採点	①事業の総合性	②芸術との出会い	③担い手の育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
		3	3	3	4	4
概要と目的	<p>町の伝統芸能の魅力を発信し、次世代への継承を図るため、竹間沢車人形の定期公演を行う。</p>					
成果	<p>昭和46年の復活公演から毎年開催してきた車人形公演も、感染症により令和2年、3年と中止を余儀なくされていた。一番の要因は定期的な稽古ができないことであったが、伝統芸能を絶やさないよう何としてでも今年度は実施しようと保存会が決起し、再開に向け町も全面的にサポートした。感染リスクを最小限に抑えるために操り手の公募は行わず、演目も規模を縮小して実施した。</p> <p>コロナ前は300人超の集客であったが、253人ととどまった。陽性者が増加していた時期だったので、その中でもよくここまで集客できたのではないかと。来場者のアンケートからは再開を喜ぶ声が多く、来年度の復活50周年記念公演に向けて大きな弾みとなった。</p>					

課 題	昭和46年の復活公演から今日まで、保存会も竹間沢地域の住民を中心に構成され、精力的に公演に取り組んできた。次世代への継承を図るならば、町全体の取り組みにしなければならず、体系的な担い手育成も必要と考えられる。復活50周年公演を機に、抜本的な改革を検討すべきだろう。
------------	--

6. 文化協会の活動支援						
採点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
		3	4	3	3	3
概要と内容	町内文化団体の連絡調整を図る文化協会に補助金を交付し、文化団体独自の文化事業を実施することで、町民が文化にふれる機会を提供する。					
成 果	令和2年、令和3年と中止になっていた「文化協会まつり」を、例年は2月に開催していたが感染症の影響が少ないと思われる7月に移行し、入場者数50%制限ながらも寄席公演を満席で実施することができた。閉塞感のある世の中で、笑いをテーマとしたイベントを開催し、来場者もほぼ70～80代であったため、後期高齢者層が芸術文化にふれることのできる取り組みとなった。後期高齢者は遠方への外出が難しいため、近場で文化に楽しむことができるイベントがあると外出しやすく、健康増進にもつながると思われる。					
課 題	文化協会の役員の年齢も高齢化が進み、会の脱退も増え、協会の存続が危ぶまれている。取り組みとしては良いものなので、協会の存続を視野に入れた新しい取り組みが必要と思われる。					

7. 国際文化フェスティバルの参加支援						
採点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
		4	4	4	3	4
概要と内容	姉妹都市等で行われる文化フェスティバルに参加する団体・個人を支援し、日本の文化と町の魅力を世界に向けて発信する。					
成 果	姉妹都市のペタリングジャヤ市（マレーシア）から国際フォークロアフェスティバルへの招待を受け、町民を中心にダンサーを公募し、マレーシアへ派遣した。その渡航費の2/3、レッスン講師謝礼、保険料、国内移動費、衣装費を支援した。30歳以下の10人で構成されたダンサーによる「さくら」をテーマとしたダンスに、マレーシア国民は大いに歓喜し、拍手喝采を浴びた。					
課 題	当初は町民からダンサーを公募していたが、平日を含む8日間の渡航であったため集まらず、結果として町民は1人のみとなった。姉妹都市の締結やホストタウン登録を経て、国際舞台への進出が可能になった今だからこそ、若年層の育成を推進していかなばならない。					

8. 芸術文化ポータルサイト						
採点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
		3	3	3	3	3
概要と内容	芸術文化イベントの周知やメンバー募集等の案内、助成金等の公募情報など、芸術文化に係る有益な情報をポータルサイトとして集約して発信する。					

成 果	<p>町の芸術文化イベントや練習場所の情報等を網羅しており、後援申請の手続き方法や掲示板マップなど文化団体にとって有益な情報が載っている。コピスみよし主催公演のチラシにも毎回ポータルサイトへの誘導を掲載しており、活用されるよう図っている。</p> <p>平成28年からの稼働は全国規模で見てもかなり早く、他自治体（東北、九州等）からも問い合わせも少なくない。</p>
課 題	<p>コロナ禍で全体の活動が止まっているせいもあるが、町主催とコピスみよし主催のイベントのみとなっており、町全体の芸術文化イベント情報になっていない。町の情報を一堂に集めるポータルサイト「わが街ポータルみよし」が令和5年2月から運用開始されたことで、芸術文化ポータルサイトの運用も見直しが必要と考える。</p>

10. まちなかコンサート						
採点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	3	4	4	4	4	19
概要と内容	人が集まりやすい商業施設等で、芸術文化にふれる機会がない人たちをターゲットに、芸術文化にふれてもらうコンサート等を開催する。					
成 果	<p>三芳町ふるさと大使の和太鼓奏者・鷹氏に協力を仰ぎ、町一番の規模を誇る商業施設アクロスプラザ三芳の屋外広場で和太鼓コンサートを開催した。できるだけ多くの人にふれてもらう機会を提供すべく、9月と10月の2日間でそれぞれ3回ずつ、計6回の実施を企画した（9月は台風の接近により中止）。施設の宣伝協力もあり、各回とも多くの人でにぎわい、また、和太鼓が発する大きな音に興味をわいて離れたところから聞きに来る人も多かった。</p> <p>演奏後には実際に和太鼓を体験できるコーナーも設け、聞くだけでなく、芸術文化に直接ふれることのできる取り組みとなった。本事業の役割を最大限に果たしたところだろう。</p>					
課 題	<p>芸術文化にふれるきっかけとしては素晴らしい成果を挙げたが、ふれた人が次にどう芸術文化に関わっていくかの道筋を考えなければならない。本事業が「無料で楽しめる芸術文化イベント」という住民サービスで終わることなく、参加者に対して簡単なアンケートを取ったり、他の芸術文化事業の告知を行ったりするなど、まだまだ改善の余地がある。</p> <p>また、多くの無関心の人に芸術文化にふれてもらうという趣旨からして、どうしても屋外になりがちだが、屋外だと楽器も限定されてくるため、マンネリ化しないよう工夫が必要だ。</p>					

12. 多様な芸術文化にふれあう事業						
採点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	3	4	3	4	3	17
概要と内容	町民が主体性ある芸術文化活動を行うきっかけとなるよう、様々なジャンルのワークショップを実施し、芸術文化への参加を促す。					
成 果	<p>コピスみよしでは昨年が続いて油絵体験ワークショップを実施した。フランスの画家モネの代表作「睡蓮」をモチーフに、作家の背景や作品の特徴を解説しながら、実際に油絵を描いていった。完成後には「何をイメージして描いたか」を参加者同士で発表し合う交流する場も設け、作品への共感性を高めるとともに自分の</p>					

	<p>作品への自信をつけることができた。</p> <p>また、町内の弦楽合奏団アンサンブル凜が主催する「大人の音楽会」(全3回)に町も参画した。実演を交えながら作曲家の背景や楽譜の特徴などを軽妙なトークで伝え、クラシックへの理解を深めつつコンサートの敷居を下げる取り組みとなった。</p> <p>いずれの事業も、広報誌等を活用して満席にすることができた。</p>
課題	<p>油絵は聞いたことも見たこともある画法だが、実際に書いたことのある人は少なく、とても良い取り組みとなった。しかし、三芳町はオランダ王国のホストタウンであるため、せっかくならオランダの作家を取り上げて相乗効果を狙いたい。大人の音楽室もとても良い取り組みなので、継続して実施していければと願う。</p>

14. 新たな担い手育成事業						
採点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
		3	4	4	3	4
概要と内容	<p>若手アーティストの活躍の場を創出するとともに、将来のキャリアを築く出発点となるよう、公演の企画・宣伝・販売等の運営面を交えたアートマネジメントを養成していく。</p>					
成果	<p>昨年度のショパン国際ピアノコンクール本大会に出場した町在住のピアニストによるリサイタルを実施した。また、中学校吹奏楽部合同演奏会を3年ぶりに実施。そして中学生芸術鑑賞会も学級閉鎖等の影響を受けないように、学校行事ではなく祝日開催にして招待公演に切り替えた。出演者には町出身で現在音楽大学に通う学生を起用した。</p> <p>いずれも有料公演ということで、自己満足の演奏ではなく観客を楽しませるプログラムとなるよう打ち合わせをし、司会者を立ててトークを交えさせるなど工夫を凝らした。宣伝もSNSを活用するなど積極的に行い、多くの参加者を集めることができた。</p>					
課題	<p>若手アーティストは演奏だけすれば良いと考えがちだが、今はトークも交えないと観客を満足させることはできない。司会が入ることによって円滑に進行することができるが、将来的には司会なしで進行できる力を持たせたい。</p> <p>また、アーティストは宣伝をマネージャーや事務所に任せがちだが、それは極一部のトップアーティストだからこそできることで、無名のアーティストほど宣伝活動を精力的に行っていかなければならない。本事業をさらにブラッシュアップさせて、特に宣伝力を身につけさせる取り組みとしたい。</p>					

15. マスタークラス						
採点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
		3	3	4	3	3
概要と内容	<p>受講者の技術向上だけでなく、聴衆の芸術に対する理解を深めるため、第一線級のプロ・アーティストを指導者とした公開レッスンをを行う。</p>					
成果	<p>世界的ピアニストの小川典子さんのリサイタルに併せ、公募で集めた小学4年生から29歳以下の4人に対してリサイタルの前日に実施した。客席は無料開放とし、81人の聴講者を集めた。講師と受講生にそれぞれマイクを持たせ、聴講者にもレッスン内容を聞き取りやすいよう工夫した。マスタークラスとリサイタルの両方に参加した人からは、小川典子さんの音楽の感じ方、つくり方を知ることが</p>					

	できて、コンサートをより楽しむことができたという声も多かった。
課題	聴講者をもっと集めたい。リサイタルと同時開催という周知方法なので、マスタークラスはリサイタルのチケットを購入しないと聴講できないという印象を与えた可能性がある。アーティストの確保の都合もあるが、集客方法を改善したい。

16. 芸術文化奨励金交付制度						
採点	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
		3	3	4	3	3
概要と内容	全国規模以上のコンクール等への出場者や成績優秀者に奨励金を交付する。					
成果	令和4年5月31日に「三芳町芸術文化コンクール等出場奨励金交付要綱」を告示した。全国・国際規模で広く参加者を募るコンクール等に出場する個人・団体を対象とし、全国規模の大会及び国際規模の国内開催大会において、個人は10,000円、団体は30,000円を交付するものとした。 令和4年度は国際規模の国内開催大会について1人の申請があり、交付した。					
課題	スポーツでは同様の奨励金交付制度が平成29年度から開始されており、年々認知度も高まっていき、多くの奨励金を交付している。芸術文化の奨励金交付制度も、町民の認知度を高めていかねばならない。					

自己評価（未実施事業）

9. みよしアートフェスティバル（芸術文化祭）

概要と内容	推進基本計画の目玉となる事業。誰もが気軽に芸術文化にふれることができ、町の芸術文化の誇りを感じられるような芸術祭を開催する。
未実施理由	産業祭と同時開催を計画していたが、感染症への懸念から産業祭が中止となり、併せて中止とした。
課題	単発の花火で終わることのない、未来を見据えた事業計画が必要。

11. 福祉施設への訪問コンサート

概要と内容	アーティストが障がい者福祉施設や特別養護老人ホーム等を訪問し、コンサート等を行う。文化施設に足を運ぶことが難しい人たちに芸術文化にふれてもらう。
未実施理由	感染症への懸念で福祉施設側の受入態勢の確保が難しく、実施を断念した。
課題	「福祉施設でコンサートをやってあげた」のような、恩着せがましくならないようにしなければならない。そのためには実施前に施設担当者と綿密な協議を重ね、どうしたら施設利用者もアーティストも運営側も楽しむことができるかを最優先で考えなければならない。

13. 芸術教科担当教員懇談会

概要と内容	学校の教材や楽器の不足など、芸術科目における問題点を町が共有し、解決を図るため、小中学校の芸術教科担当教員を集めた懇親会を定期的で開催する。
未実施理由	アウトリーチ事業と並行して行うよう考えていたが、感染症への懸念でアウトリーチ事業が実施できなかったため、芸術教科教員と関わり合いを持つことができなかった。 しかしながら、開催できたスプリングコンサート（吹奏楽部合同演奏会）を通じて中学校の音楽主任からは現場での課題を少しばかり聴取することができた。
課題	今はコロナ禍という特殊な状況ではあるが、アウトリーチ事業の実施に有無にかかわらず、現場の教員との懇談会を設けられるよう努めたい。

17. 町の文化団体・サークルの活動体験会

概要と内容	芸術文化による町民同士の交流を深めるため、町の文化団体・サークルの活動体験会を実施する。
未実施理由	町内の文化団体・サークルの日頃の活動成果の発表の場として実施している町民文化祭だが、コロナ禍の影響を受けて中止となったため、団体ごとの活動体験会の実施も困難と判断し、実施しなかった。
課題	町全体が芸術文化の薫る豊かな町と認識されるためには、町民それぞれの文化活動の底上げが必要と考える。特に公民館で古くから活動している団体に協力を仰ぎ、多くの町民を巻き込む事業を実施していかなければならない。

18. オンラインを活用した国際交流事業

概要と内容	オンラインを活用して、姉妹都市等の文化団体やアーティストとの交流事業を実施する。
未実施理由	文化会館のオンライン配信設備の整備の完了を以て取り組むため、令和4年度は企画しなかった。
課題	言語の壁を取り払うよう工夫しなければならない。

総合的な自己評価						
採点合計	①事業の 総合性	②芸術との 出会い	③担い手の 育成	④継承と交流	⑤独自性	総合点
	41	45	48	43	45	222
	52 点中	52 点中	52 点中	52 点中	52 点中	260 点中
達成率	78.8%	86.5%	92.3%	82.7%	86.5%	85%
数値目標	<p>芸術文化活動参加者数：41,794人 ※公民館は年度末の集計なので把握できず 内訳：芸術文化推進プログラム 400人、文化会館自主事業 3,836人(年度末見込 数)、文化会館利用者数(自主事業除く)36,998人(年度末見込数)、学校公 演 560人</p> <p>(参考) 前年度芸術文化活動参加者数：25,664人 ※公民館を除く 内訳：文化会館 24,684人、学校 980人</p> <p>[成果] 前年度比のべ 16,130人増(前年度比 160%)</p>					
自己評価	<p>推進基本計画が5月末に策定され、年度途中でのスタートであったため推進プ ログラムのための予算計上が限られていたものの、コピスみよし、住民団体とよく 連携を図って、可能な限りの取り組みに着手できたのではないかと。特に、三芳町 ふるさと大使をはじめとする地域の文化資源を積極的に活用し、町民からすると自 分の住む町への誇りを感じることができ、愛着度の増に大きな成果を果たしたと 言える。</p> <p>改善すべき点について、以下のとおり挙げる。</p> <p>①事業の総合性については、計画初年度であったため他分野との連携を図るこ とが難しかった。芸術文化がただの趣味・娯楽の延長ではなく、住民の暮らしに深 くかかわるものであることの理解を深めるためには必須の取り組みになるので、 次年度以降から積極的に企画に取り組みたい。また、公民館のイベントや組み 組みが入っていないが、公民館活動は町の文化活動の根幹を成すものであるため、次 年度以降は特に連携を強化して本計画を推進していかねばならない。</p> <p>②芸術との出会いについては、イベントの特性から未就学児は入場不可など制 限せざるを得ないものもあるが、特定の人だけが楽しめる内容になっていないか を精査していく必要がある。1つの事業が万人にとって楽しめるものにするのは困 難だが、全体的にみて、特性や個性によって1つもイベントに参加できないという 状況が生じないように注意したい。特に、外国人が三芳町の魅力を発信できるよ うな取り組みに注力したい。</p> <p>③担い手の育成については、推進プログラムの重要施策として5項目の中で最 高得点であったことに安堵した。芸術文化に参加した人が、考える力や創造する力 を身につけられるよう、幅広い選択肢を与えられるよう努めたい。</p> <p>④継承と交流については、ただの鑑賞にとどまらず、観客が実際に芸術文化活動 に参加できる仕組みを取り入れるなど、随所に工夫することができた。感染症によ</p>					

って人と人のつながりが以前に比べてかなり希薄になってしまったが、芸術文化活動はコミュニティを生み出しやすく、総合的な施策にも大きく関係してくることなので、力を入れて取り組みたい。

⑤独自性については、町にゆかりのあるアーティストを積極的に起用することができた。世界農業遺産の登録や自然の中でのコンサートなど、町ならではの取り組みにも着手していきたい。

課題はあるものの、芸術文化活動の参加者数は、初年度にして数値目標を達成することができた。しかしこれは、新型コロナウイルス感染症の影響で活動自粛を余儀なくされていた状況が改善されてきたことに依るものとも考えられるので、決して油断することなく、推進計画の目標達成に向けて着実に遂行していきたい。数値目標ばかりにとらわれてしまうと、ただイベントの数を増やそうとする傾向に陥りがちになってしまう。そうではなく、例えば芸術作品を町の至るところに配置していくなど、誰もが直感的に芸術文化を感じ取れるような取り組みが必要だと思われる。